



特集 平成30年度 豊岡市施政方針と予算(案)

平成30年第1回豊岡市議会定例会(2月23日~3月27日)で、
中貝市長が表明した平成30年度施政方針の一部を抜粋してお知らせします。
また、市議会に提案した平成30年度当初予算(案)を解説します。
※施政方針の全文は市ホームページ「こちら市長室」に掲載しています。



[写真：円山川と劇団移転で活性化が期待される江原駅周辺]



施政方針

ハーバード大学イチロー・カワチ教授(公衆衛生学専門家)の著作に、次の趣旨の文章が紹介されています。

「岸辺を歩いてみると、助けて! という声が聞こえる。誰かが溺れかけているのだ。私は飛び込み、その人を岸に引きずり上げる」「心臓マッサージをして、呼吸を確保して、一命を取り留めてホッと

するのをつかの間、また助けを呼ぶ声が聞こえる」「その声を聞いてまた川に飛び込む。すると、また声が聞こえる」「気が付くと私は常に川に飛び込んで、人の命を救ってばかりいるのだが、一体誰が上流でこれだけの人を川に突き落としているのか、見に行く時間が一切ないのだ」。この例え話は、治療に当たる医師の様子を述べたものです。

行政についても同様のこと
私たちは日々の課題に追わ

れています。「空き家の増加」「放棄田の増加」「集落崩壊の危機」「複式学級の増加」等々。しかし、私たちは「上流からさまざまな課題を川に投げ込んでいるものは何か」ということにも目を向けなければなりません。

「小さな世界都市」 - Local & Global City -

豊岡の上流からさまざまな困難を投げ込んでいる最大の要因は人口減少です。人々の日々の暮らしを支え続けるためにも、私たちは、人口減少対策としての地方創生の実現を図っていかねばなりません。

「小さな世界都市」という旗印と、例えば、集落崩壊の危機という目の前の現実の間には大きな乖離があるように見えます。しかし、実は、両者は同じ川の上流と下流という形で密接に結びついていることを認識しつつ、上下流両方の対策をしっかりと進めます。

人口減少の最大の要因

「若年層の社会減」

人口減少対策で、最も注視

すべき数字は、10代の社会減と20代の社会増の比較「若者回復率」です。問題は男女別の回復率です。国勢調査に基づく平成22年と27年の若者回復率は、男性が34・7%から52・2%の17・5ポイントの増加に対し、女性は33・4%から26・7%の6・7ポイントの減少でした。

若い女性の

この危機的状況の要因

さまざまな要因があると思いますが、私は、女性たちにまちが大きな期待をしてこなかったということに大きな要因があるのではないかと疑っています。もちろん、大都市の吸引力が大きいこともあり、ますが、私たちは、自身で対応可能な要因に目を向けなければなりません。

長男に対して「いつか帰ってこい」と語った大人たちはいるでしょうが、女の子に同様の言葉を掛けた人がどれほどいたでしょうか？

職場において、経営幹部として女性に期待した企業がどれほどあったでしょうか？

市役所でも長い間そうでした。

地域社会において、まちづくりにおいて、女性の役割・出番はたくさんあったでしょうか？

事態は改善されつつあると思います。しかし、長らく続いてきたいわゆる「男社会」が、有為な女性人材を埋もれさせてきたのではないかと思います。単に男女平等の理念を言っているではありません。

女性の居場所と出番が

満ちている

私たちは、これまでに市内外のさまざまな場面で、優れた能力とセンス、意欲を持ち、事態を切り開いている女性たちをたくさん見てきました。

豊岡市基本構想に定めた「多様性を受け入れ、支えあうリベラルな風がまちに満ちている」の中には、女性の居場所と出番が満ちていることも含まれています。その実現に向けて、市役所内での改革も含め、地方創生の重要課題として取り組みます。